

## 2023年10月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年9月12日

上場会社名 株式会社ウイルコホールディングス 上場取引所 東  
 コード番号 7831 URL <https://www.wellco-corp.com/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 若林圭太郎  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 大槻健 TEL 076-277-9831  
 四半期報告書提出予定日 2023年9月13日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年10月期第3四半期の連結業績（2022年11月1日～2023年7月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年10月期第3四半期	6,720	△4.4	△37	—	△33	—	△44	—
2022年10月期第3四半期	7,030	△14.3	142	△50.6	215	△28.1	181	△1.1

(注) 包括利益 2023年10月期第3四半期 229百万円 (△23.0%) 2022年10月期第3四半期 298百万円 (41.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年10月期第3四半期	△1.82	—
2022年10月期第3四半期	7.39	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年10月期第3四半期	12,423	6,179	49.7
2022年10月期	12,537	5,999	47.8

(参考) 自己資本 2023年10月期第3四半期 6,179百万円 2022年10月期 5,999百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年10月期	—	0.00	—	2.00	2.00
2023年10月期	—	0.00	—		
2023年10月期（予想）				2.00	2.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2023年10月期の連結業績予想（2022年11月1日～2023年10月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,000	10.7	100	60.6	100	△24.4	100	△11.9	4.07

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年10月期3Q	24,650,800株	2022年10月期	24,650,800株
② 期末自己株式数	2023年10月期3Q	52,690株	2022年10月期	52,690株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年10月期3Q	24,598,110株	2022年10月期3Q	24,598,110株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載した予測数値は、現在入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確実な要素を含んでおります。実際の業績等は様々な容認より異なる可能性があります。業績予測の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注記事項等については、四半期決算短信（添付資料）3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
(収益認識関係)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### （1）経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（2022年11月1日～2023年7月31日）における我が国経済は、2023年4-6月期のGDP成長率が、前期比で実質1.2%増（年率換算4.8%増）と3四半期連続のプラス成長となりました。国内においては、新型コロナウイルスの分類が5類に見直されたことにより行動制限がなくなり、観光やインバウンド需要は回復しましたが、日米の金利差による円安を主因とする物価上昇が続き、これに賃金上昇が追いつかず、個人消費の回復は力強さに欠けるものとなっております。また、欧米においては金融引締め策が継続され、中国においては、不動産不況、コロナ後の経済回復の遅れが顕在化しており、世界経済の下振れリスクが増大しつつあります。

このような環境の中、情報・印刷事業におきましては、社会経済活動の正常化が進み、飲食や観光需要は回復しつつありますが、広告宣伝媒体におけるWEB媒体の比重が高まり、フリーペーパーやチラシ等の受注が減少しました。一方で、注力しているECサイト経由のデジタル印刷の受注は堅調に推移しましたが、フリーペーパーやチラシ等の売上高減少を補うまでには至らず、セグメント売上高は6,183百万円（前年同期比3.3%減）となりました。利益面においては、印刷用紙の値上や電力料金高騰等受け、製品価格は正交渉を精力的に進めた結果、一定の目処が立つまでには至ったものの、価格競争が激化する状況下での交渉において、コスト上昇と価格改定にはタイムラグが生じざるを得ないこともあり、コスト増を当該期末までに全てカバーするまでには至らず、セグメント利益は253百万円（前年同期比32.3%減）となりました。ECサイト経由のデジタル印刷の受注については引き続きサイトの充実を図り、更なる受注拡大を目指してまいります。また、少ロット多品種・短納期生産が強みであるデジタル印刷とオフセット印刷の最適組み合わせの事例を横展開させていくとともに、一部のSDGs先進企業に既に採用を頂いている従来のプラスチック製ファイルに代わる半透明性の紙製ファイルの拡販を図ってまいります。

知育事業におきましては、当第3四半期はほぼ計画通りに推移しましたが、第1四半期の出版事業における予想外の返本と在庫評価損をカバーするには至らず、セグメント売上高は713百万円（前年同期比10.6%減）、セグメント利益は13百万円の損失（前年同期は26百万円の利益）となりました。幼保事業は、幼稚園・保育園向け卒入園用品の販売が予定通りに推移し、新商品の販売も比較的順調に進んでおります。また、出版事業については、昨年の中学の部に続き、小学校高学年の部の課題図書に児童書「5番レーン」が選定され、短期間に売上・利益を確保しました。なお、8月は幼保事業の主要販売先である幼稚園が夏休みに入り、例年売上が大幅に落ちるため、9月・10月対策として新商品やサービス等をいち早く投入し、秋・冬商品のカタログ販売に最注力すると同時に、引き続き経費削減と効率化に努め、利益の改善を図ってまいります。

報告セグメントに含まれない事業セグメント「その他」を構成していた通信販売事業は、量的な重要性が増したため、当第3四半期連結会計期間より報告セグメントの通信販売事業としております。同事業におきましては、複数の販売チャネルで食品と化粧品の販売を行い、顧客基盤強化のための先行投資として広告宣伝費を投入するとともに、アウトバウンドによるフォローを進めた結果、セグメント売上高は36百万円（前年同期のセグメント売上高は0百万円）、セグメント利益は33百万円の損失（前年同期は12百万円の損失）となりました。引き続き、アウトバウンドの活用を図りつつ、成功報酬型のインフルエンサーサービス及びSNSを新たに活用し、定期顧客継続率の向上を図るとともに、販促費を費用対効果の高い媒体に集中させ、コストの抑制を図ってまいります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は6,720百万円（前年同期比4.4%減）、営業損失は37百万円（前年同期は営業利益142百万円）、経常損失は33百万円（前年同期は経常利益215百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は44百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益181百万円）となりました。

当社印刷製品関連情報提供サイトからのリード獲得、外部の営業支援会社の活用等を通じ、新規先との取引拡大を図ってまいります。また、生成AI技術を利用し、ECサイトの「プリントモール」、情報発信サイトの「賢者の販促」のより効率的な運営を進めてまいります。更に、デザイン面においては、画像生成AI技術を利用し、お客様の要望に素早く・効率的に印刷デザインの提案ができるよう、業務形態の早期一新に努めてまいります。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第3四半期連結会計期間末における総資産は12,423百万円と、前連結会計年度末に比べて114百万円減少いたしました。これは主として、受取手形及び売掛金の減少226百万円、リース資産の減少177百万円、投資有価証券の増加389百万円によるものであります。

（負債）

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は6,243百万円と、前連結会計年度末に比べて294百万円減少いたしました。これは主として、リース債務の減少193百万円、長期借入金の減少175百万円、支払手形及び買掛金の減少125百万円、電子記録債務の増加213百万円によるものであります。

（純資産）

当第3四半期連結会計期間末における純資産は6,179百万円と、前連結会計年度末に比べて180百万円増加いたしました。これは主として、その他有価証券評価差額金の増加281百万円、利益剰余金の減少93百万円によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年10月通期連結業績予想につきましては、情報・印刷事業において、製品価格改定が浸透してくる見込みであることから、現時点では去る2022年12月12日に公表いたしました業績予想の数値を据え置くことといたしました。しかしながら、今後の原材料価格高騰等の影響等も見極め、見直しが必要になった場合には適切に開示してまいります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年10月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年7月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,522	4,499
受取手形及び売掛金	1,428	1,202
商品及び製品	445	398
仕掛品	95	83
原材料及び貯蔵品	209	228
その他	119	105
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	6,820	6,516
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	924	890
機械装置及び運搬具（純額）	337	381
土地	2,101	2,101
リース資産（純額）	742	564
建設仮勘定	26	25
その他（純額）	16	22
有形固定資産合計	4,148	3,986
無形固定資産		
その他	77	86
無形固定資産合計	77	86
投資その他の資産		
投資有価証券	1,172	1,561
その他	333	283
貸倒引当金	△16	△12
投資その他の資産合計	1,490	1,833
固定資産合計	5,716	5,906
資産合計	12,537	12,423

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2022年10月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年7月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	521	396
電子記録債務	1,428	1,642
1年内返済予定の長期借入金	685	608
リース債務	271	298
未払金	402	364
未払法人税等	28	9
賞与引当金	27	16
その他	189	189
流動負債合計	3,554	3,524
固定負債		
長期借入金	1,613	1,437
リース債務	533	313
退職給付に係る負債	367	375
繰延税金負債	404	523
資産除去債務	12	12
その他	51	55
固定負債合計	2,983	2,718
負債合計	6,538	6,243
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,667	1,667
資本剰余金	1,758	1,758
利益剰余金	2,149	2,055
自己株式	△7	△7
株主資本合計	5,568	5,474
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	385	666
退職給付に係る調整累計額	45	38
その他の包括利益累計額合計	430	705
純資産合計	5,999	6,179
負債純資産合計	12,537	12,423

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年11月1日 至 2022年7月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年11月1日 至 2023年7月31日)
売上高	7,030	6,720
売上原価	5,582	5,522
売上総利益	1,448	1,197
販売費及び一般管理費	1,305	1,235
営業利益又は営業損失(△)	142	△37
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	20	21
持分法による投資利益	30	—
受取賃貸料	16	14
受取保険金	0	14
補助金収入	30	2
その他	11	11
営業外収益合計	110	64
営業外費用		
支払利息	33	32
不動産賃貸原価	3	3
持分法による投資損失	—	8
支払手数料	—	10
その他	0	6
営業外費用合計	38	60
経常利益又は経常損失(△)	215	△33
特別利益		
固定資産売却益	0	—
特別利益合計	0	—
特別損失		
固定資産売却損	—	0
固定資産除却損	0	0
投資有価証券評価損	2	1
特別損失合計	2	2
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	213	△35
法人税、住民税及び事業税	31	8
法人税等調整額	△0	0
法人税等合計	31	8
四半期純利益又は四半期純損失(△)	181	△44
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	181	△44



(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年11月1日 至 2022年7月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年11月1日 至 2023年7月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	181	△44
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	121	281
退職給付に係る調整額	△5	△6
その他の包括利益合計	116	274
四半期包括利益	298	229
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	298	229

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自 2021年11月1日 至 2022年7月31日）

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注) 2
	情報・印刷 事業	知育事業	通信販売事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	6,231	797	0	7,030	—	7,030
セグメント間の内部売 上高又は振替高	161	—	—	161	△161	—
計	6,393	797	0	7,192	△161	7,030
セグメント利益又は損失 (△)	375	26	△12	388	△246	142

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△246百万円は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

## Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 2022年11月1日 至 2023年7月31日）

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注) 2
	情報・印刷 事業	知育事業	通信販売事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	5,970	713	36	6,720	—	6,720
セグメント間の内部売 上高又は振替高	213	—	—	213	△213	—
計	6,183	713	36	6,934	△213	6,720
セグメント利益又は損失 (△)	253	△13	△33	207	△245	△37

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△245百万円は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第3四半期連結会計期間より、従来報告セグメントに含まれない事業セグメント「その他」を構成していた「通信販売事業」について量的な重要性が増したため、報告セグメントの「通信販売事業」として記載する方法に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の区分により作成したものを記載していません。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

## (収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第3四半期連結累計期間（自 2021年11月1日 至 2022年7月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント			合計
	情報・印刷事業	知育事業	通信販売事業	
印刷	6,231	—	—	6,231
物販	—	634	0	635
書籍・教材	—	163	—	163
顧客との契約から生じる収益	6,231	797	0	7,030
その他の収益	—	—	—	—
外部顧客への売上高	6,231	797	0	7,030

当第3四半期連結累計期間（自 2022年11月1日 至 2023年7月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント			合計
	情報・印刷事業	知育事業	通信販売事業	
印刷	5,970	—	—	5,970
物販	—	537	36	573
書籍・教材	—	176	—	176
顧客との契約から生じる収益	5,970	713	36	6,720
その他の収益	—	—	—	—
外部顧客への売上高	5,970	713	36	6,720

(注) 当第3四半期連結会計期間より、従来報告セグメントに含まれない事業セグメント「その他」を構成していた「通信販売事業」について量的な重要性が増したため、報告セグメントの「通販販売事業」として記載する方法に変更しております。なお、前第3四半期連結累計期間の顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、変更後の区分により作成したものを記載しております。